札幌大学総合論叢　第23号（2007年3月）

〈論文〉

Arthur Waleyの白居易「訳」序論

張　　偉　雄

アーサー・ウェイリー（Arthur David Waley）（1889年8月19日～1966年6月27日）は，イギリスの東洋学者である。1910年，ケンブリッジ大学を卒業し，その後の1913年より大英博物館に勤務する。当時，東洋関係の語学図書や典籍資料等が入手困難な時代にウェイリーは日本語と中国語をほぼ独学で習得し数々の翻訳研究を行なった。彼の翻訳は今日でも英語圏で広く読まれており，日本古典および中国古典翻訳研究の草分けとされている。

ウェイリーの主な仕事は次のようなものがある。1921年～1933年に6巻に分けて出版された代表的な翻訳として『The Tale of Genji』（源氏物語）がある。外にも1919年に『Japanese Poetry, The 'Uta'』（日本の詩，歌），1921年に『Nō Plays of Japan』（日本の能），1928年に『The Pillow Book of Sei Shonagon』（清少納言の枕草子）他多数ある。また，中国古典からは1934年に『The Way and Its Power』（老子の道徳経），1937年に『The Book of Songs』（詩経），1938年に『The Analects of Confucius』（孔子の論語），1942年に『Monkey』（西遊記），1959年に『The Poetry and Career of Li Po』（李白）他多数を著わし或いは英訳した。

ウェイリーは1949年に，上記のほかに『THE LIFE AND TIMES OF PO CHÜ-I』（白居易）を上梓した。この本はそれまでのウェイリー自身の白居易についての研究の集大成である。それまでにウェイリーは後述するように，白居易の伝記執筆のために綿密な事前研究をしていた。

中国文学史における詩の頂点は唐代にあり，その唐代の詩人のなかで白居易はひときわ光芒を放っていたものである。白居易の詩文は，また海を渡って，平安朝の昔から日本人に最も愛好されてきた。[1]『THE LIFE AND TIMES OF PO CHÜ-I』において，ウェイリーは白居易をその位置していた時代的社会的な背景と関連性を持たせ，詩人はいかなる人間

であるか，いかなる知的生活を過ごしたのかを追求してきた。

本研究は「Arthur Waleyの白居易研究」の一環として，まずウェイリーの白居易についての翻訳や研究の軌跡を概観してみたい。アーサー・ウェイリーの最初の訳詩集『Chinese Poems』[(2)]の刊行は1916年のことであり，詩集の中に白居易の詩を3首訳していた。このArthur Waleyの最初の訳詩集に不思議な処世訓が掲示してあった。本のカバーを開けて見ると扉には，アーサー・ウェイリーのある種の人生観や学問観を代弁するかのように，次に言葉が入っている。

> Confucius heard a boy singing: "When the waters of Ts'ang-lang are clear, They do to wash my cap-tassels in. when the waters of the Ts'ang-lang are muddy, they do to wash my feet in.

この言葉は実は，屈原の『楚辞』（巻7）「漁父」にある歌である。原文は以下のようになっている。

> 滄浪之水清兮　可以濯吾纓　滄浪之水濁兮　可以濯吾足[(3)]
> （滄浪の水が澄んでいるなら，わが冠の紐を洗うがよい，滄浪の水が濁っているならば，わが泥足を洗うがよい）

この詩は祖国を追放された屈原が，あくまで節義志操を守りたいという信念を持っていたのだが，かれと問答した老漁夫は，「世の中の流れに身を任せよ」という隠者の処世訓を語ったというものであった。アーサー・ウェイリーは，かれの最初の詩集に，この言葉を強調して本の扉に飾っていたのが，意味深いものであり，これには，1916年の時代におけるアーサー・ウェイリーの心境をうかがい知るためのヒントが潜んでいる。屈原より2百年も前に生きていたConfucius（孔子）が屈原の時代の漁夫の歌を聞いたという表現手法で，ある処世訓を登場させるのは，いかなる意図であろう。その考察は別の機会に委ねるが，ここにはいかにも孤高なイギリス紳士，詩人ウェイリーらしいものを感じさせられる。

1917年，アーサー・ウェイリーは『*Thirty-eight poems by Po Chü-I*』[(4)]を出した。ウェイリーはIntroductionに，かれの漢詩翻訳の方法について述べ，漢詩翻訳時の韻律のことについて，かなり意識していたことを示していた。

> I have therefore tried to produce regular rhythmic effects similar to those of the original. Each character in the Chinese is represented by a stress...

この詩集の 38 首の白居易の詩の中に，3 首除いて，すべて Waley が新訳，後ほど『170 Chinese poems』に収めた。

同 1917 年 10 月，アーサー・ウェイリーはさらに白居易の詩を 8 首翻訳した。「*Poems of Po Chü-I*」というタイトルで The Little Review [(5)] に出した。後ほどこの 8 首の詩も『170 Chinese poems』に収めた。

この時期，ウェイリーの訳詩は，ある人物に注目されていた。それは Ezra Pound [(6)] であった。かれは 1917 年 7 月 2 日，The Little Review の編集長 Margaret Caroline Anderson に次のような手紙を出していた。

> Have at last got hold of Waley's translations from Po Chü-I. Some of the poems are magnificent. Nearly all the translations marred by his bungling English and defective rhythm... I shall try to buy the best ones, and to get him to remove some of the botched places. (He is stubborn as a jackass, or a scholar.) [(7)]

この手紙には Ezra Pound の複雑な気持ちが込められている。東洋の言語の習熟度に問題があると言われていた Pound にとって，アーサー・ウェイリーの翻訳について，いろんな意味で非常に興味関心が高かったはずであった。

同じ 1917 年 10 月に 7 首，11 月に 10 首，二回にわたって，ウェイリーはまた『*Poems by Po Chü-I*』[(8)] というタイトルで白居易の詩を訳した。この 1917 年は，実にアーサー・ウェイリーの白居易詩翻訳が目立った年でもあった。この年の 12 月にウェイリーが過去『The Little Review』に発表した白居易の訳詩が再登場することになった。編集長の Margaret Caroline Anderson は再発表の理由を 'I reprint these poems from the October number. They are too good for anyone to miss.' のように書いていた。

1918 年，アーサー・ウェイリーの『*Further poems by Po Chü-I, and an extract from his prose works, together with two other T'ang poems*』[(9)] が出版された。その中でアーサー・ウェイリーは白居易の詩を 22 首訳した。ここに至ってアーサー・ウェイリーは，白居易詩の翻訳によって，かなりの程度で白居易の全体像を把握できるようになった。

以上のような綿密な準備をしてから，1918 年にウェイリーは『*A Hundred and seventy Chinese poems*』[(10)] を世に公開した。この詩集の Part II に白居易（Po Chü-I）特集が組まれ，

白居易の詩が60首翻訳されていた。また白居易についてIntroductionに7頁ほど書き示した。Introductionの終わりに，この60首の詩は読者にとって白居易の生涯を理解するのに有効なものだとの認識を示していた。かれはこのように書いている。

> It is usual to close a biographical notice with an attempt to describe the "character" of one's subject. But I hold myself absolved from such a task; for the sixty poems which follow will enable the reader to perform it for himself. (11)

伝記の主人公の作品そのものを重視し，その作品自身によってみずから主人公の生涯を写し出す，というのはアーサー・ウェイリーの人物伝記の書き方の重要な特色である。後にかれは白居易の本格的な伝記を書くときにも，この方法は踏襲されていた。この時点でアーサー・ウェイリーは，白居易の特色，かれの詩の風格などについて，明確な認識を持つようになった。この認識はウェイリーの白居易愛着につながったように思う。ウェイリーは次のようにかれの白居易理解を示している。

> The most striking characteristic of Po Chü-I's poetry is its verbal simplicity. There is a story that he was in the habit of reading his poems to an old peasant woman and altering any expression which she could not understand. ... Po expounded his theory of poetry in a letter to Yüan Chên. Like Confucius, he regarded art solely as a method of conveying instruction. (12)

ウェイリーの示したstoryは，中国宋代の釋恵洪の『冷斎夜話』に見える白居易に関するエピソードである。「白楽天毎作詩，令一老嫗解之，問曰解否，嫗曰解則録之，不解則易之，故唐末之詩，近於鄙俚」(13)

アーサー・ウェイリーのこの評価は中国における白居易論にもつながっている。白居易詩の大きな特色の一つとしては，人々が日常的に感じて言おうとするが，詩的な言葉をもってうまく表出できないものを，詩に表す，というところにある。中国清朝の趙翼は『甌北詩話』において，この点を評していた。「中唐詩以韓孟元白爲最，韓孟尚奇警，務言人所不敢言；元白尚坦易，務言人所共欲言」(14)

アーサー・ウェイリーは『*A Hundred and seventy Chinese poems*』において，白居易と日本との関係についても注目をしていた。かれは次のように書いている。

Even during his lifetime his reputation had reached Japan, and great writers like Michizane were not ashamed to borrow from him. He is still in high repute there, is the subject of a Nō Play and has even become a kind of Shinto deity. It is significant that the only copy of his works in the British Museum is a seventeenth-century Japanese edition.（下線筆者）[15]

さらに翌年（1919年）に，アーサー・ウェイリーは『*More translations From the Chinese.*』[16]を誕生させた。この詩集には，「白居易略年譜」があり，白居易の詩52首を集めた。本詩集のIntroductionにおいて，アーサー・ウェイリーは詩の選出基準を次のように書いていた。

This book is not intended to be representative of Chinese literature as a whole. I have chosen and arranged chronologically various pieces which interested me and which it seemed possible to translate adequately.

ウェイリーはかれ自身の基準で訳詩を選んでいた。そして，その結果，詩集の大半は白居易の詩にその頁を譲っていた。同Introductionにウェイリーはさらに次のように書いていた。

I have, as before, given half my space to Po Chü-i, of whose poems I had selected for translation a much larger number than I have succeeded in rendering.

この言葉からもアーサー・ウェイリーの白居易愛着がはっきりと読み取れる。以上のような基礎準備に基づいて，ウェイリーの白居易研究はさらに進み，1949年において，アーサー・ウェイリーの白居易研究の集大成である『*The life and times of Po Chü-I*』[17]を世に問うことになった。この本はロンドンで出版してから十年経ったあと，日本語に訳された[18]。このウェイリーの仕事について，日本語訳者の花房英樹は高い評価をしていた。花房氏の評には以下のようなものがある。

（アーサー・ウェイリーは）西欧の知性らしく，個人を時代の中で把握しようと試み，政治の現実を分析して，官僚社会の一員としての白居易が，いかに現実に反応し，いかに行動したかを解明している。そしてまた，文学に関する広い見識は，白居易が，

時代の文学的動向の中で，どのような人々と主張を同じくし，どのような集団と交渉したかを，克明に記述している。さらには，当時の思想に対する幅のある理解が，知識人としての内的生活を解剖し，白居易の思想が，儒教に身を鎧った姿勢から，仏教の哲理を求めるような態度に移行した過程を，詳細に解説するのである。(19)

これはおおむね妥当な評価である。アーサー・ウェイリーにとって，人物研究の基本的な方法は，人物を時代に還元して考察し，人物の自らの発言から事実の真相を究明するというものであった。ウェイリーはかれの方法を次のように書いている。

In the main my account of Po's life is founded on his own writings, both prose and verse, with their 'titles' and prefaces. A Chinese 'title' (*t'i*) is often a description of the circumstances under which a poem or essay was written rather than a mere heading, and prefaces (*hsü*) give an even more extensive account of these circumstances, so that solid biographical data can often be got from an author's poetical works, of a kind indeed sometimes more reliable than those supplied by the official notice of his life in the history of his period. (20)

以上眺めてきたように，アーサー・ウェイリーは白居易を研究するために，実に長年にわたって，白居易の作品を英訳してきた。ウェイリーにとって人物を究明するのに，もっとも有効な方法は，人生を記録するような性質をもっている，詩人のみずからの詩作から考察することである。この方法に基づいて，ウェイリーの研究は大量な白居易の詩の翻訳から始まった。これを通じて，本当の白居易解明につながろうとしていた。これは有効な手段である。英国人のアーサー・ウェイリーにとって，漢語で作成した詩文を違う言語英語に変換すること自身，原作者への全身霊的な接近であり，責任ある解釈的な行為でもある。この翻訳行為について，ウェイリーは次のように述べていた。

Different kinds of translation are needed for different purpose. If one is translating a legal document all one needs to do is to convey the meaning; but if one is translating literature one has to convey feeling as well as grammatical sense. The author puts his feelings — exasperation, pity, delight — into the original. They are there in his rhythm, his emphasis, his exact choice of words, and if the translator does not *feel* while he reads, and simply gives a series of rhythmless dictionary meanings, he may think he is

being 'faithful', but in fact he is totally misrepresenting the original.[21]（下線は筆者）

アーサー・ウェイリーは文学創作活動に携わる者に対する最大の理解者の一人であろう。——文学作者はかれらの感情，喜怒哀楽というものを作品に注いでいるので，訳者がそれを感じとれなくて，単に乾燥無味に辞書に載っている言葉を羅列するに止まったら，まったく原作を代訳する資格がない！——ウェイリーのこの発言には非常に頼もしいものを感じる。アーサー・ウェイリーの一連の翻訳研究業績を眺めていると，かれは確かに以上の認識をもって，自分の翻訳のモットーとしていることが分かる。一個人を研究するときであろうと，一時代の歴史を研究するときであろうと，アーサー・ウェイリーはいつも努めて相手の「感じ方」，相手の「目」にアプローチして資料を解読していたのである。中英の近代史の一大事件であるアヘン戦争についても，ウェイリーは研究業績を残した。その研究は林則徐の日記解読を中心に展開していた。ウェイリーのこのアヘン戦争研究はその本のタイトル『*The Opium War through Chinese Eyes*』[22]にもあるように，相手の「目」を重視する姿勢を通していた。本稿のこれからも続行する研究として，ウェイリーの翻訳論乃至かれの学問研究の方法論を再度整理し，そしてそれがいかに具体的に彼の翻訳や研究の中に投影しているのかを，考察することである。またウェイリーは選択的に白居易の詩文を翻訳していたのだが，かれの選択の基準は何であるか，解明したいと思う。さらに雑多ある東洋の詩人の中に，ウェイリーがひときわ白居易に執着する理由は何であるのか，これもウェイリーの全体像を鳥瞰できたときに，回答が自ら出てくるのではないだろうか。以上の一連の作業を通して，アーサー・ウェイリーにとって，孔子が屈原と対話した漁夫の歌を聞いたとする,「おとぎ話」のような設定の中にある「滄浪の水が澄んでいるならば，わが冠の紐を洗うがよい，滄浪の水が濁っているならば，わが泥足を洗うがよい」という歌声が文人アーサー・ウェイリーにとっての意味合いは何であるのかも，解けるのではないかと思う。

注

1. アーサー・ウェイリーも白居易の日本における影響について言及していた。「In the *Tale of Genji* the numerous references to Chinese poetry are all to poems either by Po or by his friends Yüan Chên and Liu Yü-hsi.」『*The life and times of Po Chü-I*』George Allen & Unwin Ltd, London, 1949. p 213.
2. *Chinese Poems*. Lowe Bros. London, 1916.
3. 屈原（前三四〇頃～前二七八頃）
   中国，戦国時代の楚の政治家，文人。名は平。字は原。楚王の一族で懐王に信任され，左徒，三閭

大夫となる。のち傾襄王のとき，中傷にあって江南に追放され，時世を憂えて悩みを苦しんだすえ，汨羅（べきら）の淵に身を投じた。「楚辞」の代表作家で，その抒情的叙事詩「離騒」は後世の文学に大きな影響を与えた。ほかに「天問」「九歌」などがある。

4. *Thirty-eight poems by Po Chü-I.* BSOS, 1917.
5. Margaret Caroline Anderson が創設したアメリカの文芸雑誌。アメリカ，イギリスのモダニズムライターの作品を中心に 1914 年から 1929 年まで活躍していた。
6. エズラ・ウェストン・ルーミス・パウンド（Ezra Weston Loomis Pound）
（1885 年 10 月 30 日～1972 年 11 月 1 日）詩人，音楽家，批評家。T・S・エリオットと並んで，20 世紀初頭の詩におけるモダニズム運動の中心的人物の一人。幾つかのモダニズム運動，特に，イマジズム（Imagism）及び ヴォーティシズム（Vorticism）を推進した。
7. Margaret Caroline Anderson への手紙。『*Wikipedia the free encyclopedia*』Arthur Waley の項を参照。
8. *Poems by Po Chü-I*, New Statesman, 1917.
9. *Further poems by Po Chü-I, and an extract from his prose works, together with two other T'ang poems.* BSOS 1918.
10. *A Hundred and seventy Chinese poems.* Constable and Company Ltd, London. 1918.
11. 同上 p 89.
12. 同上 p 87.
13. 『白居易資料彙編』中華書局　1962 年．p 162.
14. 同上 p 307.
15. Introduction. 『*A Hundred and seventy Chinese poems.*』Constable and Company Ltd, London. 1918. p 89.
※ It is significant that the only copy of his works in the British Museum is a seventeenth-century Japanese edition. について，後にこの本の再版のとき，17 世紀の日本版であることについて，アーサー・ウェイリー自ら否定し，"This is of course no longer true." と書いていた。
16. *More translations From the Chinese.* George Allen & Unwin LTD. 1919.
17. 『*The life and times of Po Chü-I*』George Allen & Unwin Ltd, London, 1949.
18. 『白楽天』アーサー・ウェイリー著．花房英樹訳　みすず書房　1959 年。
19. 同上「あとがき」p 483.
20. 『*The life and times of Po Chü-I*』George Allen & Unwin Ltd, London, 1949. p 5.
21. 「Notes on Translation」『The Atlantic Monthly』Nov. 1958.（*Madly Singing in the Mountains_An Appreciation and Anthology of Arthur Waley. London, G.A & Unwin*, 1970. p 152 に収録。）
22. *The Opium War through Chinese Eyes.* George Allen & Unwin Ltd. 1958.

付　録

一，アーサー・ウェイリーの主な著作

A Hundred and Seventy Chinese Poems, 1918

More Translations from the Chinese, 1919

Japanese Poetry: The Uta, 1919

The Nō Plays of Japan, 1921

The Tale of Genji, by Lady Murasaki, 1921-1933『源氏物語』
The Temple and Other Poems, 1923
Introduction to the Study of Chinese Painting, 1923
The Pillow Book of Sei Shōnagon, 1928（『枕草子』の抄訳）
The Way and its Power: A Study of the Tao Te Ching and its Place in Chinese Thought, 1934（道徳経）
The Book of Songs (Shih Ching), 1937（『詩経』）
The Analects of Confucius, 1938『論語』
Three Ways of Thought in Ancient China, 1939（荘子，孟子，法家）
Translations from the Chinese. 1941
Monkey, 1942『西遊記』の抄訳
Chinese Poems, 1946
The Life and Times of Po Chü-I, 1949（白居易）
The Nine Songs: A Study of Shamanism in Ancient China, 1955『九歌』
Yuan Mei: Eighteenth Century Chinese Poet, 1956（袁枚）
The Opium War through Chinese Eyes, 1958（アヘン戦争）
The Poetry and Career of Li Po, 1959（李白）
Ballads and Stories from Tun-Huang, 1960 敦煌
The Secret History of the Mongols, 1963

二，参考文献

1. Francis A. Johns, *A bibliography of Arthur Waley*. The Athlone Press. London. 1988.
2. *Madly Singing in the Mountains — An Appreciation and Anthology of Arthur Waley*. London, G.A & Unwin, 1970.
3. Alison Waley, *A Half of Two Lives*, (London, 1982)
4. John Walter de Gruchy, *Orienting Arthur Waley: Japonism, Orientalism, and the Creation of Japanese Literature in English*. Honolulu. University of Hawai'i Press. 2003.
5. 宮本昭三郎『源氏物語に魅せられた男　アーサー・ウェーリー伝』新潮社　1993 年。
6.『白氏長慶集』宋紹興刻版　文学古籍刊行社写真版　1955 年。
7.『白居易資料彙編』中華書局　1962 年。
8.『白居易集』中華書局　1979 年。
9. 中国社会科学院文学研究所『唐代文学史』上下　人民文学出版社　1995 年。

本研究は平成 14 年度札幌大学研究助成による研究成果の一部である。